

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成26年7月24日 (2014.7.24)

【公開番号】特開2013-190744(P2013-190744A)

【公開日】平成25年9月26日 (2013.9.26)

【年通号数】公開・登録公報2013-052

【出願番号】特願2012-58519(P2012-58519)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

G 0 3 B 21/14 Z

G 0 3 B 21/00 E

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成26年6月6日 (2014.6.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 1】

液晶プロジェクタに代表される光学装置への応用を考える場合、青色（概略波長範囲 430 nm～500 nm）には、図 13（a）に示すワイヤグリッド構造 WG の高さが 120 nm の反射型偏光素子が適していることがわかる。また、緑色（概略波長範囲 500 nm～600 nm）には、ワイヤグリッド構造 WG の高さが 120 nm（図 13（a））と 150 nm（図 13（b））の間の反射型偏光素子が適している。さらに、赤色（概略波長範囲 600 nm～680 nm）には、図 13（b）に示すワイヤグリッド構造 WG の高さが 150 nm の反射型偏光素子が適していることがわかる。さらに、CD プレーヤなどに使用される波長 780 nm～830 nm の近赤外線レーザ光用としては、図 13（c）に示すワイヤグリッド構造 WG の高さが 180 nm の反射型偏光素子が適していることがわかる。